

第 1 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	普通預金 支払利息	960,000 40,000	手形借入金	1,000,000
2	土地	3,450,000	未払金 現金	3,400,000 50,000
3	修繕費	20,000	現金	20,000
4	租税公課 引出金	60,000 40,000	現金	100,000
5	貸倒引当金 貸倒損失	210,000 90,000	売掛金	300,000

【解説】赤字は 新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ

1. 約束手形を振り出して借り入れをしたときの仕訳を問う問題である。

P.107, 108 参照

- ・約束手形を振り出して現金を借りたときは「手形借入金」(負債)で処理する。

(貸)手形借入金 1,000,000

- ・「利息を差し引かれ」

この利息は借りたときの利息であるから「支払利息」(費用)で処理する。

(借)支払利息 40,000

- ・「残額は普通預金口座に振り込まれた」 (借)普通預金 960,000

※1. 利息・地代・家賃・手数料には、「支払」または「受取」を付ける。

この問題では借りた時の利息であるから、支払利息とする。

2. 普通預金も当座預金や定期預金と同じように、財貨であるから、資産である。

2. 固定資産を購入したときの仕訳を問う問題である。

P.104 参照

- ・「土地を購入し」 (借)土地 3,300,000 ← 165 m<sup>2</sup> × ¥20,000

- ・購入手数料・整地費用は固定資産の取得原価に加える

(借)土地 3,450,000 ← ¥3,300,000 + ¥100,000 + ¥50,000

- ・「代金は後日支払う」 (貸)未払金 3,400,000

- ・「¥50,000 を現金で支払った」 (貸)現金 50,000

※固定資産は使用するために購入する(使用目的資産)ものであるから、使える状態になるまでに

かかる諸費用（購入手数料、整地費など）は固定資産の取得原価に加える。

3. 備品の修理費用を支払ったときの仕訳を問う問題である。

- ・「修理費用を支払った」 (借) 修繕費 20,000
- ・「¥20,000 を現金で支払った」 (貸) 現金 20,000

4. 固定資産税を納付したときの仕訳を問う問題である。

- ・「固定資産税を納付した」 (借) 租税公課 100,000
- ・「40% は店主の住居部分に対するものである」

※店主の住居部分は私用にあたることに注意する

- ・私用にあたる部分は資本の引き出しになるので資本金勘定の借方か、引出金勘定で処理する。

(借) 租税公課 60,000 ← ¥100,000 × 60 %  
引出金 40,000 ← ¥100,000 × 40 %

- ・「現金で納付した」 (貸) 現金 100,000

5. 前期に計上した売掛金が貸し倒れになったときの仕訳を問う問題である。

P.150, 151 参照

- ・「売掛金 ¥300,000 が貸し倒れた」 (貸) 売掛金 300,000

- ・前期の売掛金が貸し倒れになったときは、貸倒引当金を取り崩す。

(借) 貸倒引当金 210,000

- ・貸倒引当金の不足分は貸倒損失勘定（費用）で処理する。

(借) 貸倒損失 90,000

※当期に計上した売掛金が貸し倒れになったときは、貸倒引当金勘定は使わずに貸倒損失勘定で処理する。

第 2 問

【解答】

取引日		仕		訳	
		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	5	売掛金 発送費	300,000 5,000	売上 当座預金	300,000 5,000
	10	仕入	300,000	当座預金 買掛金	200,000 100,000
	20	売上	30,000	売掛金	30,000
	30	買掛金	250,000	当座預金 当座借越	195,000 55,000

【解説】 補助簿から取引の仕訳を推定する問題である。

P.68, 69, 79, P85~88 参照

- 1月 5日 ・当座預金出納帳の引出欄 5,000 より貸方は当座預金、同じく摘要欄の発送費から借方は発送費となる。  
 (借) 発送費 5,000 (貸) 当座預金 5,000
- ・売上帳に記帳されていることから貸方は売上、摘要欄の掛から借方は売掛金となる。  
 (借) 売掛金 300,000 (貸) 売上 300,000
- 1月 10日 ・当座預金出納帳の引出欄 200,000 および、摘要欄の仕入より次の仕訳が推定できる。  
 (借) 仕入 200,000 (貸) 当座預金 200,000
- ・買掛金元帳（熊本商店）の貸方 100,000 および摘要欄の仕入より次の仕訳が推定できる。  
 (借) 仕入 100,000 (貸) 買掛金 100,000  
 ⇩ 整理する  
 (借) 仕入 300,000 (貸) 当座預金 200,000  
 買掛金 100,000
- 1月 20日 ・売上帳に赤記されていること、および摘要欄の掛戻りより次の仕訳が推定できる。  
 (借) 売上 30,000 (貸) 売掛金 30,000
- 1月 30日 ・当座預金出納帳の引出欄 250,000 と摘要欄の掛代金支払い、買掛金元帳（大分商店）より次の仕訳が推定できる。  
 (借) 買掛金 250,000 (貸) 当座預金 ~~250,000~~  
 しかし、当座預金出納帳の残高（1月 10日）が¥195,000 であるため、不足分は当座借越勘定（負債）で処理する。  
 (借) 買掛金 250,000 (貸) 当座預金 195,000  
 当座借越 55,000

## 第 3 問

## 【解答】

## 試 算 表

借 方			勘 定 科 目	貸 方		
12 月 31 日の 合 計	12 月中の 取 引 高	11 月 30 日の 合 計		11 月 30 日の 合 計	12 月中の 取 引 高	12 月 31 日の 合 計
1,711,000	101,000	1,610,000	現 金	910,000	81,500	991,500
8,871,500	419,000	8,452,500	当 座 預 金	6,600,000	613,500	7,213,500
2,300,000	300,000	2,000,000	受 取 手 形	1,400,000	150,000	1,550,000
3,480,000	280,000	3,200,000	売 掛 金	2,600,000	200,000	2,800,000
			貸倒引当金	30,000		30,000
250,000		250,000	繰 越 商 品			
550,000		550,000	前 払 金	500,000	50,000	550,000
150,000	25,000	125,000	仮 払 金	125,000	25,000	150,000
400,000		400,000	備 品			
			備品減価償却累計額	120,000		120,000
700,000	100,000	600,000	支 払 手 形	800,000	200,000	1,000,000
2,100,000	250,000	1,850,000	買 掛 金	2,400,000	200,000	2,600,000
800,000		800,000	借 入 金	2,000,000		2,000,000
770,000	70,000	700,000	前 受 金	700,000	70,000	770,000
18,000	1,500	16,500	所得稅預り金	18,000	1,500	19,500
			資 本 金	2,000,000		2,000,000
100,000		100,000	売 上	7,700,000	750,000	8,450,000
5,182,000	532,000	4,650,000	仕 入	40,000		40,000
1,800,000	150,000	1,650,000	給 料			
38,000	3,000	35,000	発 送 費			
130,000	24,000	106,000	旅 費 交 通 費			
600,000	50,000	550,000	支 払 家 賃			
87,000	7,000	80,000	通 信 費			
220,000	20,000	200,000	水 道 光 熱 費			
7,000	1,000	6,000	手 形 売 却 損			
20,000	8,000	12,000	支 払 利 息			
30,284,500	2,341,500	27,943,000		27,943,000	2,341,500	30,284,500

## 【解説】

11 月末の合計試算表に 12 月中の取引高を加算し、12 月末の合計試算表を作成する問題である。

## I. 12 月中の取引の仕訳を行う。

1 日 (借) 仕 入 252,000 (貸) 前払金 50,000  
買掛金 200,000  
現金 2,000

※・「発注時に支払った手付金」は前払金（資産）で記帳されている。それを差し引いたので貸方が前払金となる。

・問題文中の「手付金」・「内金」は、前払金か前受金のいずれかである。この問題では「支払った手付金」とあるから、前払金になる。

・引取費用は仕入原価に加算する。

5 日 (借) 所得税預り金 1,500 (貸) 現金 1,500

※「源泉徴収した所得税」は所得税預り金勘定（負債）で処理されている。

8 日 (借) 仮払金 25,000 (貸) 現金 25,000

9 日 (借) 現金 100,000 (貸) 売上 400,000  
受取手形 300,000

※「同店振出しの小切手」とは、他人振出しの小切手のことであるから現金として扱う。

10 日 (借) 旅費交通費 24,000 (貸) 仮払金 25,000  
現金 1,000  
当座預金 70,000 前受金 70,000

11 日 (借) 仕 入 280,000 (貸) 当座預金 80,000  
支払手形 200,000

12 日 (借) 当座預金 149,000 (貸) 受取手形 150,000  
手形売却損 1,000

※手形を売却したときの仕訳はパターンで覚える。

17 日 (借) 前受金 70,000 (貸) 売上 350,000  
売掛金 280,000  
発送費 3,000 現金 3,000

※1. 問題文の「手付金」は、商品を引き渡す（売上）前に受け取った手付金であるから、前受金（負債）である。それを差し引くから借方が前受金となる。

2. 「当店負担の発送費用」は、発送費勘定（費用）で処理する。なお、得意先が負担する発送費用を立替払いしたときは、①売掛金勘定または②立替金勘定で処理する。

20 日 (借) 支払手形 100,000 (貸) 当座預金 100,000

22 日 (借) 当座預金 200,000 (貸) 売掛金 200,000

24 日 (借) 買掛金 250,000 (貸) 当座預金 250,000

25日 (借) 給料 150,000 (貸) 所得税預り金 1,500  
 当座預金 148,500

※給料を支払ったときの仕訳はパターンで覚える。

〃日 (借) 通信費 7,000 (貸) 当座預金 7,000  
 26日 (借) 水道光熱費 20,000 (貸) 当座預金 20,000  
 〃日 (借) 支払利息 8,000 (貸) 当座預金 7,000  
 29日 (借) 支払家賃 50,000 (貸) 現金 50,000

II. 試算表の作成

[現金勘定で解説する]

試算表

借方			勘定科目	貸方		
12月31日の 合計	12月中の 取引高	11月30日の 合計		11月30日の 合計	12月中の 取引高	12月31日の 合計
②	①	1,610,000	現金	910,000	③	④

例えば、次の手順で作成する。

1. 仕訳の（借方）現金の金額を加算し、①に記入する。

$$¥100,000 (9日) + ¥1,000 (10日) = ¥101,000$$

2. 11月30日の借方合計に上記①を加算し、②に記入する。

$$¥1,610,000 + ① = ¥1,711,000$$

3. 仕訳の（貸方）現金の金額を加算し、③に記入する。

$$¥2,000 (1日) + ¥1,500 (5日) + ¥25,000 (8日) + ¥3,000 (17日) + ¥50,000 (29日) = ¥81,500$$

4. 11月30日の貸方合計に上記③を加算し、④に記入する。

$$¥910,000 + ③ = ¥991,500$$

**POINT**

本問では「合計」試算表が問われているので、「残高」を記入しないよう注意すること

第 4 問

【解答】

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
138,000	減価償却費	24,000	114,000

※確認

<b>間接法</b>	備品勘定	…	取得原価が記録される
	備品減価償却累計額	…	減価償却の累計額が記録される
<b>直接法</b>	備品勘定	…	取得原価から減価償却累計額を差し引いた金額が記録される
帳簿価額	間接法	…	備品 - 減価償却累計額
	直接法	…	備品勘定の残高

【解説】 間接法で記帳されている備品勘定を、直接法で記帳する問題である。

P.154, 155 参照

解答の手順 (参考)

1. 1月1日および12月31日の帳簿価額から、(ア)と(エ)を求める。

$$1/1 \text{ の帳簿価額 } \quad \text{間接法} \quad \text{¥138,000} \quad (\text{¥144,000} - \text{¥6,000}) = \text{直接法} \quad (\text{ア})$$

$$12/31 \quad \text{〃} \quad \text{間接法} \quad \text{¥114,000} \quad (\text{¥144,000} - \text{¥30,000}) = \text{直接法} \quad (\text{エ})$$

2. (イ)・(ウ)を求める。

備品減価償却累計額勘定の貸方の12/31の記録より、決算日における減価償却の仕訳は次のようになる。

間接法 (借) 減価償却費 24,000 (貸) 備品減価償却累計額 24,000

これを直接法で行えば次のようになる

直接法 (借) 減価償却費 24,000 (貸) 備品 24,000

よって、(イ)は減価償却費、(ウ)は24,000である。

第5問

【解答】

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	695,000			5,000			690,000	
当座預金	2,600,000		100,000				2,700,000	
受取手形	600,000			100,000			500,000	
売掛金	500,000		200,000				700,000	
貸倒引当金		20,000		4,000				24,000
繰越商品	500,000		450,000	500,000			450,000	
消耗品	80,000			70,000			10,000	
備品	600,000						600,000	
備品減価償却累計額		180,000		60,000				240,000
支払手形		400,000						400,000
買掛金		600,000						600,000
借入金		1,500,000						1,500,000
資本金		2,500,000						2,500,000
売上		11,800,000		200,000		12,000,000		
仕入	8,300,000		500,000	450,000	8,350,000			
給料	1,920,000				1,920,000			
支払家賃	900,000			180,000	720,000			
通信費	120,000				120,000			
水道光熱費	160,000				160,000			
支払利息	25,000		5,000		30,000			
	17,000,000	17,000,000						
雑(損)			5,000		5,000			
貸倒引当金繰入			4,000		4,000			
減価償却費			60,000		60,000			
(消耗品費)			70,000		70,000			
(前払)家賃			180,000				180,000	
(未払)利息				5,000				5,000
当期(純利益)					561,000			561,000
			1,574,000	1,574,000	12,000,000	12,000,000	5,830,000	5,830,000



【解説】 精算表を完成する問題である。

P.172 参照

[決算整理事項等]

1. 決算日に判明した現金過不足の処理

(借) 雑 損 5,000 (貸) 現 金 5,000

※帳簿残高より実際有高が少ない(現金不足)であるから、不足額を雑損勘定(費用)で処理する。

2. 未記帳取引の判明

(借) 当座預金 100,000 (貸) 受取手形 100,000

3. //

(借) 売 掛 金 200,000 (貸) 売 上 200,000

4. 貸倒引当金の設定

P.148~149 参照

(借) 貸倒引当金繰入 4,000 (貸) 貸倒引当金 4,000

—費用—

—受取手形・売掛金の評価勘定—

※ 貸倒引当金繰入額

受取手形期末残高 ¥500,000 ( 残高試算表 決算整理事項 2.  
¥600,000 - ¥100,000 )

売掛金期末残高 ¥700,000 ( 残高試算表 決算整理事項 3.  
¥500,000 + ¥200,000 )

貸倒引当金繰入額  $(\frac{¥500,000}{\text{受取手形}} + \frac{¥700,000}{\text{売掛金}}) \times 2\% - ¥20,000 = ¥4,000$   
貸倒引当金残高(残高試算表)

5. 売上原価の計算

P.143~145 参照

(借) 仕 入 500,000 (貸) 繰越商品 500,000 … 期首商品棚卸高(残高試算表「繰越商品」)

(借) 繰越商品 450,000 (貸) 仕 入 450,000 … 期末商品棚卸高(問題文に指示)

6. 消耗品勘定の整理

P.162 参照

(借) 消耗品費 70,000 (貸) 消耗品 70,000

—費用—

—資産—

【確認】 消耗品については次の二つの会計処理法がある。

	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法	購入したとき消耗品勘定で処理する方法
購 入 時	消耗品費 ×× 現金預金 ×× —費用—	消 耗 品 ×× 現金預金 ×× —資産—
決 算 日	未使用高 ↓ 消 耗 品 ×× 消耗品費 ×× —資産—	使 用 高 ↓ 消耗品費 ×× 消 耗 品 ×× —費用—

※この問題では、残高試算表に消耗品勘定(資産)があることから、購入したとき消耗品勘定で処理していることがわかる。そこで、当期使用高¥70,000(購入高¥80,000 - 未使用高¥10,000)を計算し、それを消耗品勘定(資産)から消耗品費勘定(費用)に振り替える。

7. 減価償却費の計上 (定額法)

P.152, 153 参照

(借) 減価償却費 60,000 (貸) 備品減価償却累計額 60,000  
 -費用-

※減価償却費の計算 (定額法) 取得原価 (¥600,000) ÷ 耐用年数 (10 年) = ¥60,000

8. 前払保険料の計上

P.160, 161 参照

(借) 前払家賃 180,000 (貸) 支払家賃 180,000  
 -資産-

※「未経過高」は前払高と同じ意味なので読み換える

9. 未払利息の計上

P.167, 168 参照

(借) 支払利息 5,000 (貸) 未払利息 5,000  
 -負債-

	1/1	
	11/1	12/31
借入金	¥1,500,000	
利息支払済み	¥25,000	利息の未払

※ 未払利息の計算

$$¥1,500,000 \times 2\% \times \frac{2 \text{ ヶ月}}{12 \text{ ヶ月}} = ¥5,000$$

—精算表を作成する—

1. 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

(1) 金額を加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	500,000 ①		450,000 ②	500,000 ③			450,000 ④	

※ 500,000 (①) と同じ借方にある 450,000 (②) は加算し、反対側にある 500,000 (③) は減算する。

(2) 資産・負債・純資産の各勘定の金額は貸借対照表欄に移記し、収益・費用の各勘定の金額は損益計算書欄に移記する。

2. 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

前払家賃・消耗品 … 資産  
 未払利息 … 負債  
 貸倒引当金繰入・減価償却費・雑損・消耗品費 … 費用

※貸倒引当金勘定は売掛金および受取手形の評価勘定であり、備品減価償却累計額は備品の評価勘定である。精算表を作成するときはいずれも負債の側に記載する。

3. 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、
- (1) P/L (損益計算書) の借方と B/S (貸借対照表) の貸方に差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。もし、P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失となる。
  - (2) 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。